

2022 年度 東アジア政治 I 学期末試験 7 月 25 日（月） 第 4 限（15：00 ～ 16：30）

担当：磯崎典世

<注意事項>

- ・学期末試験は成績評価の 50%となるので、50 点満点として作成しています。
- ・解答の順序は問いませんが、どの問題の解答がわかるよう番号を明記して下さい。
- ・配点の高い問題は相応する分量の論述が必要となります。配点を論述の分量の参考にして下さい。

問 1：戦後東アジアにおける国際関係と各国の対応について、下記の小問ごとに論じなさい。

- (1) 1950 年代に冷戦はいかに「構造化」したのか。朝鮮戦争勃発、サンフランシスコ講和条約、朝鮮戦争休戦などの契機を踏まえて、なぜどのように冷戦が「構造化」されたのか説明しなさい<配点：10 点>
- (2) 1960 年代冷戦の対立において、なぜ「開発」が重要課題になり、日本はアジア諸国とどんな関係を構築したか。<配点：5 点>
- (3) 1970 年代にアメリカの東アジア政策は、なぜどのように変化したのか。そのもとで、韓国と台湾の対応はどのような相違が生じたのか。アメリカの政策変化に対応して、日本はアジア諸国とどんな関係を構築したか。<配点：10 点>

問 2：(1) 台湾を統治した国民党政権は、どのような論理で一党支配の正統性を主張し、台湾社会を支配したのだろうか。一党支配の正当化（国政選挙を行わず、台湾人を国政から排除する）論理と、台湾の地方社会に国民党の支配が浸透していったメカニズムについて説明しなさい。<配点：5 点>

- (2) 「1 つの中国原則」とはどのような内容か。それに対応するアメリカおよび日本の対中政策は、いつどのような内容で設定されたか。米中および日中の外交関係の基本枠組みについてまとめなさい。<配点：10 点>

問 3：日本の国際社会復帰とともに日韓両国の国交正常化にむけた交渉が開始されたものの、その実現には時間を要した。なぜ国交正常化が難航し（対立の争点は何だったのか）、なぜ 1960 年代半ばに決着が図られ、どのような妥結に至ったのか。これらの点を整理したうえで、この条約がその後の両国関係に与えた影響についても論じなさい。<配点：10 点>

ボーナス問題：問 1～問 3 で 50 点満点となります。下記はボーナス問題です。

第 14 回（7 月 18 日）の授業で事前提示した問題について論じなさい。<配点 10 点>